

科目区分	専門分野 I	科目名	日常生活援助技術 Ⅲ(食事・排泄)	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第2学期
担当講師	渡部 寛子(臨床経験21年、教育経験4年)				
科目目標					
授業概要	<p>食事と排泄行動を整える日常生活援助技術を習得する。</p> <p>I. 食事・栄養の援助 (8時間)</p> <p>第1回 食事・栄養の意義と基礎知識</p> <p>1. 食事・栄養の意義 2. 食事援助の基本 3. 栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 4. 栄養や食事における看護師の役割</p> <p>第2・3回 食事摂取の介助</p> <p>1. 健康障害と食生活 2. 食事摂取介助 1) 目的・適応 2) 具体的な方法 3) 実施前のアセスメントと介助方法の決定 4) 援助の実際と実施後の評価</p> <p>第4回 経口摂取できる患者の食事介助の実際(演習)</p> <p>1. 環境調整 2. 食器の位置や補助具・自助具の工夫 3. 食事姿勢の調整 4. 食事動作の介助</p> <p>II. 排泄の援助 (20時間)</p> <p>第5回 排泄の意義と基礎知識</p> <p>1. 排泄の意義 2. 排泄のメカニズム(排尿・排便) 3. 排泄に影響する因子 4. 排泄のアセスメント</p> <p>第6回 自然排尿および自然排便を促す援助</p> <p>1. 排泄に影響を及ぼす因子 2. 排泄障害がある患者の援助 3. 排尿障害のある患者の援助 1) 排尿障害とは 2) 排尿障害の種類 3) 具体的な援助 4. 排便困難のある患者の援助 1) 便秘 (1) 便秘の種類 (2) 具体的な援助 2) 下痢 (1) 下痢の種類 (2) 具体的な援助</p> <p>第7回 排泄の援助方法</p> <p>1. トイレにおける排泄援助 2. ポータブルトイレでの排泄援助 3. 床上排泄援助 1) 便器・尿器のあて方 2) おむつによる排泄援助</p> <p>第8回 床上での排泄援助の実際1(演習)</p> <p>1. 尿器・便器の当て方 2. トイレ歩行・ポータブルトイレでの排泄</p> <p>第9回 床上での排泄援助の実際2(演習)</p> <p>1. おむつ使用による排泄援助</p> <p>第10回 排尿障害時の援助</p> <p>1. 導尿 1) 一時的導尿 (1) 目的・適応 (2) 具体的な方法 (3) 禁忌 2) 持続的導尿 (1) 目的 (2) 具体的な方法 (3) 禁忌 (4) カテーテル管理</p> <p>第11・12回 導尿の援助の実際(演習)</p> <p>1. 一時的導尿の援助 2. 持続的導尿の援助</p> <p>第13回 排便障害時の援助</p> <p>1. 浣腸 1) 目的・適応 2) 種類と作用(グリセリン浣腸・高圧浣腸など) 3) 方法・根拠 4) 禁忌 2. 摘便 1) 目的・適応 2) 方法・根拠 3) 禁忌</p> <p>第14回 排便障害時の援助の実際(演習)</p> <p>1. 浣腸の方法 1) 浣腸液の温め方 2) 浣腸液の注入方法 2. 摘便の方法</p> <p>第15回 科目終了試験 (2H技術試験含む)</p>				
看護師国家試験出題基準	<p>食事の栄養と意義、健康な食生活と食事摂取基準、治療食・療養食、食事と栄養に影響する要因、食事と栄養のアセスメント、食事摂取の自立困難な人への援助、排泄の意義、排泄に影響する要因、排泄のアセスメント、自然な排泄を促す援助、トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助、床上での排泄援助、自然な排泄が困難な人への援助、尿失禁・便失禁のある人への援助</p>				
授業の進め方	<p>形態と機能、疾病・治療論、栄養学、既習の看護技術の学習内容を想定しながら授業を進める。看護技術は、手元の細かい動きをビデオで投影することで理解を助け、DVD視聴によりイメージ化を図る。学生間による患者模擬体験を通して、援助を受ける患者の心理を知り、援助に活かすことができるようにする。</p>				
履修のポイント・留意事項	<p>人体の構造・機能に関わる知識を基盤とし、援助を行う根拠を考える。そして、安全・安楽・羞恥心に配慮した、原理原則に基づいた援助技術を習得する。校内演習では、既習学習の滅菌包布の開け方、滅菌手袋の装着の内容を復習し、主体的学習として真剣に取り組む。</p>				

科目区分	専門分野 I	科目名	日常生活援助技術 Ⅲ(食事・排泄)	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第2学期
担当講師	渡部 寛子(臨床経験年、教育経験年)				

テキスト

系統看護学講座 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社

評価方法・配点

課題・レポート・授業態度(演習参加度)・科目修了試験 (80%)
実技試験:膀胱内留置カテーテル挿入 (20%)